



ロンドンの冬

新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。年越しを現場で過ごされている方々、大変お疲れさまです！

毎年、年越しはロンドンにいても年越し蕎麦や、お餅を食べたり、日本の年越しの習慣をロンドンの友達とシェアしたりしています。日本に帰る年もあるのですが、今年は静かにロンドンで年越しをすることにしました。

さて、イギリスのお正月ですが、大体のイギリス人はクリスマスでエネルギーとお金を使い果たし、気が抜けた雰囲気年越しを迎えるという印象を受けます。なので、日本のように、特別な祝い方をしません。イギリス人はクリスマスを家族と過ごし、年越しは友達と過ごすことが普通で、日本とは正反対のようです。

1月1日午前0時に新年の訪れを大騒ぎをして祝うものの、一夜明ければ、元旦もごくごく普通の日です。大晦日 (New Year's Eve) には多くの人々がトラファルガー広場にくだします。(昨年は、特にエンターテインメントがなかったにもかかわらず、9万人の人出があったそうです。) また、友人や親戚を呼んでパーティーをしたり、地元のパブに近所の人たちと集まったりして、新年の訪れを祝います。除夜の鐘ならぬビッグベン(国会議事堂の時計塔)の0時の鐘がなると、あちこちで花火があがります。(これはガイ・フォークスの花火大会とは異なり、個人であげます。)

街中はクリスマスの時の方が、よっぽど照明デコレーションに気合いが入っています。キリスト教ではない人たちもクリスマスを年末の行事として

祝う家族も沢山います。毎年かどうかはわかりませんが、クリスマスの夜は地下鉄が無料になることもあったり、地下鉄の職員がサンタクロースの帽子を被っていたり、最終電車でドアが閉まる時に歌いながらカウントダウンがあったり、とても陽気な雰囲気です。

ロンドン市内のクリスマスイルミネーションは、毎年違うデザインなのですが、なんと今年は去年の物を再利用していました。毎年のクリスマスイルミネーションを見ると、ロンドンの景気の良し悪しと今後の意気込みのようなものが見えてくるようです。それらのイルミネーションのほとんどはLEDデコレーションで、残りはソディウムかディスチャージランプでの建築照明です。商店街に明かりのトンネルを作り、「クリスマスを楽しもう!もっとクリスマスプレゼントを買いましょう!」という雰囲気を醸し出しているのです。

そういう意味では、クリスマスデコ

レーションの照明は、かなりのビジネス効果をもっているということなのかもしれません。デパートのショーウィンドウの照明もそうですね。いかに、この腕時計を高級感溢れる時計に見せるか、カラフルな照明でいかに子どもを引き寄せるか。よく観察すると、照明がどれだけビジネスを手助けしているか見えてきます。ロンドンが照明でいかに観光客を呼び集めているか、そこはちょっと微妙です。東京各地で見られるイルミネーションと比べると、ロンドンはこんなにも歴史的建物があるにも関わらず、ちょっと物足りない気がしてきます。それでもウエストミンスター寺院はいつ見ても奇麗です。見応えのある観光名所だけでなく、街角の一角を工夫して、ロンドンの忘れられがちな部分を面白く見せてくれる照明が、これからどんどん増えていって欲しいなと願います。

